

10. 用語解説

◎「家庭でもできるフィルム保存の手引き [日本語版]」を利用する際の手引としてお役立て下さい。

[あ]

アーカイヴァル

ARCHIVAL

広い意味では、100年単位の長期保存にかなう保管庫や空調などの設備が整っている状態のこと。アーカイヴ内で使用する備品（保存用ケース、梱包材、包装紙など）を指す場合は、所蔵品の長期保存に際して悪影響を及ぼすことがない素材、つまり、化学反応を起こさない（不活性）素材を指す。

アーカイヴァル・プリンティング

[フィルム→フィルムへの複製]

ARCHIVAL PRINTING

復元を専門とする現像所（ラボ）でおこなう複製作業。縮みや乾燥など、劣化の兆候がみられる古いフィルムも傷めることなく扱えることが条件となる。通常は、現存するネガからプリントを焼くこと、または現存するプリントからネガ（インター・ネガ）を作成し、そこから新しいプリントを焼くことを指す。現状ではフィルムからフィルムへの複製を繰り返すことが最善のフィルム保存方法とされている。

アウト・テイク

OUT-TAKE

最終プリント段階で結局使われることのなかった場面を撮影したフィルム。

アセテート

ACETATE

フィルム・ベースの一種。遅燃性。ナイトレート・ベース（可燃性）のリスクを回避するため1920年代にアマチュア用フィルムとして生産が開始された。ナイトレートの製造が中止された1950年代初頭からは、35mmベースの主流を占めるようになる。アセテート系ベースには

ダイアセテートとトリアセテート（＝セルロース・トリアセテート／トリアセテート・セルロース／3酢酸セルロース／TAC）がある。近年ではトリアセテートが主流で、ポリエステル・ベースとともに「不燃性（セイフティ）」とも呼ばれる。アセテート系ベースの成分である酢酸はビネガー・シンドロームの要因となる。

映画フィルム

MOTION PICTURE FILM

薄く柔軟性のある透明な素材で、通常は片側または両側にパーフォレーションがあり、連続する画像を擁している。

エッジウェーブ／フラーティング

EDGEWAVE/ FLUTING

フィルムの中央部が縮んで（またはエッジが伸びて）全体がワカメ状になること。

エッジコード／デートコード

EDGE CODE

フィルムの製造番号。エッジに沿って印刷された記号が製造年やベース素材などをあらわす。

エマルジョン／乳剤

EMULSION

感光乳剤。映画フィルムにおいてはハロゲン化銀粒子をゼラチンに分散させたものを指し、これがフィルム・ベースにコーティングされる。

エンド

TAIL

フィルムの巻末。
トップ HEAD 参照。

オブティカル・サウンド

／オブチカル・サウンド／光学サウンド

OPTICAL

光学技術によりフィルムの端に沿って記録される音声。透明なフィルム上に黒い波線のようにみえるのがエリア（variable area）で、グレイのグラデーションのようにみえるのがデンシティー（variable density）。音の抑揚に対応するトラック部分の形状が映写機のエキサイ

ター・ランプによって読み取られ、その光が音声に変換されて再生される仕組み。

[か]

片目

SINGLE-PERFORATION FILM

片側だけにパーフォレーションのあるフィルムのこと。この場合、パーフォレーションのない側にサウンド・トラックがあることが多い。

カップリング

CUPPING

フィルムの受けるダメージの一種。フィルムがお椀型に反って、平らに戻らない状態。フィルムの一部がひどく縮むことで起こる。縮み方によってはバックリング、エッジ・ウエーブ／フラテイングなどの呼び名がある。

カメラ・オリジナル

CAMERA ORIGINAL

撮影時に使用された（現像所ではなく撮影カメラの中で感光した）フィルム。

クレイジング

CRAZING

乳剤面にあらわれるひび割れのようなライン。アセテート・ベースの縮みによって起こる。

形状

GAUGE

フィルムの幅（単位：ミリ）。

35mm：プロ仕様。1895年に登場。

16mm：プロ／アマ兼用。1923年に登場。

8mm：アマチュア用。1932年に登場（コダック製）。ストックは16mm幅で、現像段階で半分（8mm）に切断。

スーパー8：プロ／アマ兼用。1965年に登場。（コダック製）。

シングル8：アマチュア用。1965年に登場（ポリエステル・ベース、カートリッジ、富士フィルム製）。

他に9.5mm、28mm、17.5mm、70mmなどがある。

ゲート

GATE

撮影用カメラ、映写機、焼付機などで、アパチャー（開口）部分にフィルムを正確にセットする機構。

現像処理

PROCESSING

感光したフィルムの現像、定着、水洗など。ネガ現像とポジ現像がある。

コダカラー

KODACOLOR

1920年代に登場した16mm レンチキュラー加色法カラーで、映写時に特別なレンズを必要とする。直にフィルムを見ると、ラインの入った白黒画像になっている。

コダクローム

KODACHROME

世界でも最初期の多層式カラーフィルム。1935年にコダックが16mmアマチュア用フィルムとして製造を開始した安定性の高いリバーサル・フィルムで、現在も8mm、スーパー8、スライド・フィルムとして販売されている。

コンザベーション

[保存]

CONSERVATION

フィルムの劣化の進行を遅らせ、その延命につとめること。例えば、フィルムをアーカイヴ仕様の缶に入れて低温度に設定した倉庫に保管するなど、必要最低限の処方を目指す。

[さ]

サウンドトラック

SOUNDTRACK

フィルムの片側（パーフォレーションとフレームの間）に沿って走っているオプティカル・トラック、又はマグネティック・トラックのこと。

サプライ・リール

SUPPLY REEL

映写機のゲートを通過して映写される前のフィルムをかけるリール。
テイクアップ・リール TAKE-UP REEL 参照。

樟腦

CAMPHOR

ナイトレート及びダイアセテート・フィルムに使用される可塑剤（加工性、物理的性質を改善するための添加物）で、フィルムに柔軟性と安定性を与える。いわゆる防虫剤の臭いから判別できる。

シングル 8

SINGLE 8

形状 GAUGE 参照。

シンチマーク

CINCH MARKS

フィルムや磁気テープ上のタテ方向に走る短いキズ。原因となるのはフィルムの巻きの中に紛れこむ埃やゴミなど。不適切な方法で巻き取られた場合などに起こる。

↓シンチング CINCHING 参照。

シンチング

CINCHING

フィルムを巻き取るとき、端をきつく引っ張ることによって、フィルムの巻きの中に紛れた埃やゴミが擦れ、表面に細かいタテ傷が付くこと。

↑シンチマーク CINCH MARKS 参照。

スーパー 8

SUPER8

形状 GAUGE 参照。

ステージング・エリア／慣らし室

STAGING AREA

低温で保管されているフィルムをすぐに倉庫の外に出すと結露などを起こすため、倉庫の設定よりやや高めの温度でフィルムを慣らす。そのために用意されたスペースのこと。

スプライス／接合／接着

SPLICE

連続して映写できるようにフィルムとフィルムをつなぐ作業のこと。以下の3タイプがある。
テープ・スプライス TAPE SPLICE（ベースの素材を問わず使用できる）

セメント・スプライス CEMENT SPLICE（ポリエステル・ベースには使用できない）

高周波スプライス ULTRA-SONIC SPLICE
（ポリエステル・ベースにのみ使用できる）

スプリット・リール

SPLIT REEL.

コア巻きのフィルムを支えるリール。取り外しのできる2面が合わさって、その中央にコアを挟む構造になっている。

スプロケット

SPROCKET

映写機、カメラ、撮影機などに使用されているフィルム送りのためのローラーに付いている歯。この歯がパーフォレーションとかみ合うことでフィルムを輪動する。

セイフティ・フィルム

SAFETY FILM

ナイトレート・ベースのフィルムではないもの通常はアセテート系を指すが、ポリエステルがこれに含まれることもある。

ゼラチン

GERATIN

乳剤として使用される物質。ハロゲン化銀の粒子はゼラチンの中に拡散して浮いていると考えて良い。蹄、骨、獣皮などを原料とする動物性たんぱく質から成る。ゼリーやマシュマロなど、食用ゼラチンと基本的には同じものだが、純度がより高い。

染色

TINT

無声映画の時代に一般的だった技法。通常は現像後に白黒フィルムのベース面を染める。したがって透明（スクリーン上では白）であるべき部分が、パーフォレーションも含めて全面何らかの色に染まる。

調色 TONE 参照。

相対湿度

RELATIVE HUMIDITY

飽和水蒸気量（水が空气中、気体でいられる最大の絶対湿度）に対しての割合（%）。飽和水蒸気量は気温が上がると増え、下がると減る。長期保存を考えると、相対湿度の設定は非常に重要となる。

[た]

タイミング・シート

タイミング・ストリップ

TIMING SHEET/ TIMING STRIP

現像所で使用される紙片で、焼き付けの際に正しい光量、使用するフィルターを確認し、結果として適切な色や濃度などを出すためのもの。米国ではタイミング、米国外ではグレーディングと呼ばれることが多い。

ダイアセテート

DI-ACETATE

アセテート系ベースの素材。初期の16mmフィルムはセルローズ・ダイアセテートを使用して生産された。防虫剤のような独特の臭いがある。1951年を境に、これにかわってトリアセテートが使用されるようになった。

縮み/シュリンケージ

SHRINKAGE

水分、可塑剤（樟脳など）、溶剤を失うことでフィルムの従来の長さが変化したり幅が狭まること。映写熱や使用頻度、経年劣化によることもある。同じ条件のフィルムでも縮み率は不規則。

調色

TONE

無声映画の時代には一般的だった技法。白黒フィルムの銀粒子（通常は黒色）を別の色に変える。したがって通常は黒であるべき部分が何らかの色に染まる。ベース面やフレームの外側に色が付くことはない。
染色 TINT 参照。

テイクアップ・リール

TAKE-UP REEL

映写機のゲートを通過して映写されたフィルムが巻き取られるリールのこと。
サプライ・リール SUPPLY REEL 参照。

テレシネ

TELECINE

映画フィルムの情報をビデオテープに変換する装置。

ディスプレイメント

DISPLACEMENT

映写機の構造上、画とそれに対応する音とはフィルム上で若干ずれている。このずれ（フレーム数）のことを指す。

8mm マグネット = 56 フレーム

スーパー8 マグネット = 18フレーム

スーパー8 オプチカル = 22フレーム

16mm マグネット = 28フレーム

16mm オプチカル = 26フレーム

トップ

HEAD

フィルムの巻頭。フレームの画像の天地をみると、天の方向ががトップに向かっている。
エンド END参照。

トリアセテート

TRI-ACETATE

アセテート ACETATE参照。

[な]

ナイトレート

NITRATE

ニトロセルローズ・ベースのフィルム。（米国では）1951年以前に製造された35mmフィルムのみで使用されたと考えてほぼ間違いない。非常に燃えやすいという危険な性質のため、1952年以降は製造中止となった。（但し旧ソ連や中国では1970年代まで製造されていたといわれる）。コダック製の場合、エッジに沿って「NITRATE」と印刷されていることから判別できる。

ネガ

NEGATIVE

一般的に上映用ではなく、反転画像を持つフィルム。ポジ・プリントを作成する為のプリント過程において原版として使用する。基本的にはスチル写真用カメラで使用するネガと同じと考えて良い。

[は]

パーティクル・トランスファー・ローラー

PARTICLE TRANSFER ROLLERS (PTRs)

フィルムに付着したゴミや埃を除去するための粘着性のあるゴム製のローラー。フィルム洗浄機、または映写機（通常は35mmのプラッター映写用）にも使用されている。

パーフォレーション

PERFORATION

映画フィルムの端に一定の間隔であけられている穴。厳密な規格が定められている。カメラや映写機などの機械にかけると、この穴とスプロケットやピンなどがかみ合わさってフィルムが回転する。この穴のダメージは「パーフォレーション壊れ」と呼ばれる。

バインダー

BINDER

フィルムのベース面と乳剤面、または磁気面とベース面をつなぐ素材。

バックリング

BUCKLING

パーフォレーションのあるフィルムの端が中央より激しく縮むと起こる。長期保存に際して、端から溶剤や水分が失われることに起因する。

ハブ

HUB

フィルム・リールの中央部分。

バランス・ストライプ

BALANCE STRIPE

サウンド・トラックの反対側にある少し細めの磁気コートライン。フィルムを巻くときに両縁の厚みのバランスをとるのが目的。

ハロゲン化銀

SILVER HALIDES

乳剤に使用される感光材料。

ビネガー・シンドローム

VINEGAR SYNDROM

アセテート系ベース・フィルムの強烈な酢酸臭を伴う劣化の過程を指す。これは自己触媒（自ら反応を促進する）反応で、一旦この症状があらわれると劣化のスピードは加速するばかり。

フィルム・アーカイヴ

FILM ARCHIVE

映画フィルムを収集・保存する組織。フィルムだけでなく映画に関わる様々な物品（台本、ポスター、スチル写真、映写機等）を所蔵することもある。

フィルム・セメント

FILM CEMENT

フィルムとフィルムを重ねてつなげる接着剤。

フィルム・ワインド

FILM WIND

片目フィルム（通常は16mm）のエマルジョンとパーフォレーションの位置関係を指す。Aワインド又はBワインドがある。フィルムの天地を正しく配置し、正像（鏡像ではないこと）が確かめられる場合、手前が乳剤面であればAワインド、ベース面であればBワインドとなる。

ブロー・アップ

BLOW-UP

形状がオリジナルよりも大きいこと。例えば8mmを35mmに、35mmを70mmに拡大できる。

ベース

BASE

映画フィルム用としては、透明で柔軟性のある支持体のことを指す。アセテート、ポリエステル

ルが主流。これにエマルジョン（乳剤）がコーティングされている。

プリザベーション

[保存]

PRESERVATION

映画フィルムの延命をはかる一連の作業（保管、複製、データ入力、カタログ化）のすべて。

プリント・スルー

PRINT-THROUGH

フィルムが焼き付けられる時にオリジナルのエッジコード（製造番号）、パーフォレーション、ゴミ、傷等が新しいプリントに焼込まれてしまう現象のこと。新しいプリント上では反転（黒字に白）となり、シャープさに欠けることから判別できる。

フルコート・マグ

FULL-COAT MAG

片面すべてが磁気コートされているサウンド専用のマグネティック・フィルム。

ポリエステル

POLYESTER

ポリエチレンテレフタレート（polyethylene terephthalate）のこと。無機質の薄い素材で、現在では35mm劇場用フィルムのベースとして使用されている。商品名はコダック社がエスター（ESTAR）、デュポン社がクロナー（Cronar）。

[ま]

マグネティック・サウンド

／マグネティック・フィルム／シネ・テープ

CINE TAPE/ MAGNETIC FILM

フルコート・マグに録音されたサウンド・トラックのこと。音楽用のカセット・テープに似ている。

マグネティック・サウンド・ヘッド

／磁気ヘッド

MAGNETIC SOUND HEAD

磁気サウンドの再生装置。映写機ヘッドとサブライリールのアーム又はマガジンの間に取りつけられている。

[ら]

リーダー

LEADER

映画フィルムを機械に装填するときに必要な部分。パーフォレーションのあるプラスチック素材が使用される。フィルムを守る役割も果たしている。

リキッド・ゲート

LIQUID GATE

焼付の際、元素材となるフィルムの擦りキズがプリントに焼き込まれることを防ぐため、フィルム素材と同じ屈折率をもつ液体で満たしたゲートにフィルムを通して焼き付ける。この方法はウエット・プリント／リキッド・プリントとも呼ばれる。但し、この方法で消すことができるのは主にベース面の浅い傷のみ。

リダクション・プリント

REDUCTION PRINT

形状がオリジナルよりも小さいこと。例えば35mmを16mmに、16mmを8mmに縮小できる。

リバーサル・フィルム

REVERSAL FILM

撮影用カメラで感光させた後、直接ポジ画像に処理できるフィルム。あるいはポジからポジを焼くときに使用するフィルム。

リバーサル・プロセス

REVERSAL PROCESS

ポジ→ポジ、またはネガ→ネガを焼く方法。

粒状性

GRANINESS

ネガ、プリント、スライドの荒れ。拡大するほど目立つようになる。